

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目  
——コリント人への第一の手紙

メッセージ 3

神の深み

聖書：I コリント 2:6-10

I. コリント人への第一の手紙第2章10節において、「神の深み」とは、神の深い事柄のことを言っています：

- A. わたしたちは、神の深みにしたがって神を知る必要があります。神の深みとは神聖な事柄であり、神が深いとみなしているものです——ローマ 11:33。
- B. 神の深み、神の深い事柄は、わたしたちの永遠の分け前として多くの面を持つキリストです。彼は神によってあらかじめ定められ、備えられ、わたしたちに無代価で与えられました——I コリント 2:10。
- C. コリント人への第一の手紙第2章6節から10節でパウロは、キリストが神の深みであることを啓示しています：
  - 1. キリストが神の深みであるとは、彼が神の深い事柄、浅薄でない事柄であることを意味します——エペソ 3:8。
  - 2. すべてを含む広大な方であるキリストは真に神の深みです——I コリント 2:10。
  - 3. 神の深みを知ることは、わたしたちの永遠の分け前としての多くの面におけるキリストを知ることです——1:24。
- D. もしわたしたちがコリント人への第一の手紙の内容全体（すべてを含むことにおけるキリストを提示している書簡）を考慮するならば、神の深みが、神聖で、霊的な要素であるだけでなく、神の存在の中の深みにある、人格を持たない実質であるだけでもないことを認識するでしょう。わたしたちは、最終的に神の深みはすべてを含むキリストであることを認識します——1:30. 5:7 後半-8 前半. 10:3-4. 15:20。
- E. わたしたちはキリストを知り、経験し、享受するとき、最終的に神の存在の深みの中へと入ります——2:10：
  - 1. その時、わたしたちは全能の神の心の中に、その深みの中にあること、また彼がわたしたちの内なる要素となられることを認識します——エペソ 1:3。
  - 2. わたしたちがキリストを享受するとき、神の深みに触れ、そして神はわたしたちの内側で神聖な要素となられます——4:18. 2:4. I ヨハネ 1:5. ローマ 1:16 後半-17 前半。
- F. わたしたちがすべてを含むキリストを経験することにおいて前進するとき、ある日、キリストが神の深みであることを知り始めるでしょう——ピリピ 3:10。

II. コリント人への第一の手紙第2章10節で述べられている神の深みは、6節から10節における重要な言葉（知恵、奥義、あらかじめ定められた、栄光、愛、その霊）と内在的に関係しています：

- A. 「わたしたちは、……知恵を語ります……わたしたちが語るのは、奥義の中の神の知恵、すなわち隠されてきた知恵です。それは、わたしたちに栄光を得させるために、もろもろの時代の前に神があらかじめ定められたものです」—— I コリント 2:6-7 :
1. 奥義の中の神の知恵は、神の深い事柄であるすべてを含むキリストです——10 節。
  2. キリストは、「成人した者たちの間で」知恵です。ですから、成人した者たちは、神の中で隠されてきた知恵を知り、経験する度量があります——6-7 節 :
  3. 神の知恵はキリストです (1:24)。彼は隠されていた奥義であり (コロサイ 1:26-27)、わたしたちの栄光のために、もろもろの時代の前にあらかじめ定められ、あらかじめ選ばれ、あらかじめ運命づけられていました。
  4. 神の中に隠されてきた奥義の中にある神の知恵は、すべてを含むキリストであり、彼の計り知れない豊富と無限の大きさを伴っています——エペソ 3:8, 18。
  5. 神の中に隠された奥義である神の知恵は、「わたしたちに栄光を得させるために、もろもろの時代の前に神があらかじめ定められた」知恵です。ここでの重要な語句は「あらかじめ定められた」です—— I コリント 2:7。
    - a. あらかじめ定めるとは、特定の事柄や人の最終の結果、または運命を前もって印づけ、決定することです。
    - b. 神はこの世の基が置かれる前からわたしたちを選び、わたしたちをあらかじめ印づけられました。あらかじめ印づけることは過程ですが、あらかじめ定めることは目的です——エペソ 1:5, 11。
  6. わたしたちは、栄光化されるために、奥義の中にある神の知恵であるキリストを必要とします。神は、あらかじめ定めて、わたしたちに栄光を得させます—— I コリント 2:7。
  7. コリント人への第一の手紙第 2 章 7 節における「わたしたちに栄光を得させる」ことは、団体的です。すなわち、キリストのからだとしての召会の中で、栄光の神が団体的に表現されることです——エペソ 1:6, 3:21, 啓 21:10-11 前半。
- B. 『このように書かれているとおりです、「目が見たこともなく、耳が聞いたこともなく、人の心に思い浮かんだことのないものを、神はご自身を愛する者たちのために備えてくださった」』—— I コリント 2:9。
1. 神がわたしたちのために定め、備えてくださった深くて隠された事柄を認識し、それにあずかるために、わたしたちは彼を信じるだけでなく、彼を愛することもまた必要です——マルコ 12:30。
  2. 神を愛するとは、わたしたちの全存在、すなわち、霊、魂、体 (心、力、霊、魂、体を伴う) を完全に彼の上に置くことです——30 節。
    - a. これが必要とすることは、わたしたちの全存在が彼によって占有され、彼の中で失われることです。その結果、彼がわたしたちのすべてとなり、わたしたちは日常生活の中で、実際的に彼と一つになります——ローマ 8:5-6, エペソ 3:17, 4:15, 20-21, コロサイ 3:1, 3-4, 11, 15-17。
    - b. このようにして、わたしたちは神と最も近く、最も親密な交わりを持ち、神のみこころの中に入り込んで、彼の心の秘密をすべて理解することができるよう

になります— I ヨハネ 1:3. 詩 73:25. 25:14。

c. わたしたちは神の深くて隠された事柄を認識するだけでなく、経験し、享受し、十分にあずかるのです— I コリント 2:10。

3. パウロは、奥義の中の神の知恵、すなわち、わたしたちに栄光を得させるために、神があらかじめ定められたことについて語った後、わたしたちがキリストを愛することなしに、奥義の中の神の知恵であるキリストを知り、経験することはできないと言っています—9 節。

C. 「神はわたしたちに、その霊を通してそれらを啓示されました。その霊はすべての事柄、神の深みさえも探られるからです」—10 節。

1. 神の深みを知ることは、絶対的にその霊にかかっています。その霊は、これらの深みを探るだけでなく、それらをも知っています：

a. その霊は、神の深みを知る唯一の道です—10 節。

b. その霊は、わたしたちが神の深みの中に隠された奥義的な事柄の知識を得る源です—11 節. ローマ 8:11, 16. ヨハネ 14:26。

2. 実際の霊だけが神の深みであるキリストを探り、実際化することができます—17 節. 15:26。

3. 神の霊は、キリストに関する神の深みを探求し、それらをわたしたちの霊の中でわたしたちに示します。それはわたしたちが認識し、あずかるためです— I コリント 2:11-12。

4. わたしたちはすべてを含むキリストの経験と享受の中で前進するとき、神の深みであるキリストの中へと入ります。それは、わたしたちをこれらの深みの中へと探り、導くその霊を通してであり、神の深い事柄をわたしたちに実際化します—ヨハネ 15:4-5, 7. 16:13. I ヨハネ 4:6. 5:6。

III. コリント人への第一の手紙全体の内容において、「神の深み」(2:10)は、命を与える霊、すなわち、わたしたちの霊に内住する、すべてを含むキリストを示しています—ローマ 8:11：

A. これらの深みが認識され識別されることができるのは、わたしたちの哲学的な思いによらず、ただ神の霊によって内住されたわたしたちの再生された霊によってです—ヨハネ 3:6. ローマ 8:11。

B. ミングリングされた霊によってのみ、わたしたちは神の深み、わたしたちの享受のための分け前であるすべてを含むキリストの異なる面を識別することができます— I コリント 6:17。

C. もしミングリングされた霊を活用するなら、わたしたちは表面的な方法ではなく、神の深みとしてのキリスト、また神の深みの中でさえキリストを経験し、享受するでしょう—2:10。

D. 徐々にわたしたちは、自然に神の心の中へと入り、神の深い事柄であるキリストを経験し、わたしたちの内側の存在の構成となりつつあります—エペソ 3:8, 16-18。